

【幼児の活動～年長組の近隣3校への訪問】

1 二条小学校 《学習発表会児童観覧日の見学》

本園の生活発表会につながるよう指導計画に位置付けて毎年見学をお願いし、保護者の理解を得て開始時刻に合わせて現地集合としている。今年度は、年長組と同じ題名の劇を見学することができたため、幼児は動きやせりふを真似して自分たちの劇に取り入れるなどして意欲的な発表につながった。

2 桑園小学校 《校内見学・授業見学・雪山での遊び》

1回目は1年生の授業や体育館を見学した。翌日の就学児健診では、幼児から小学校の先生に声を掛けたり先生から声を掛けてもらったりして関わりが生まれ、小学校への親しみや安心感を深めることができた。2回目はグラウンドの雪山で遊んだ。日頃園庭で親しんでいる雪遊びの経験を活かし、小学校の先生に関わってもらいながらダイナミックな遊びを楽しむことができた。



【雪山での遊び】

3 資生館小学校 《校内見学・授業見学》

就学が近付いた2月末に、小学校の校内や1年生の授業を見学する機会を得たことで、小学校入学への期待が一段と高まった。折しも、1学期に乗車体験をした市電がループ化され、資生館小学校に早く行けるようになったことが幼児の間でも話題になり、保護者の理解を得て、往路は徒歩で行き、復路は市電を利用した。

【教職員の取組～桑園小学校との教職員交流～】

教職員が桑園小学校を訪問し、園の教育活動や研究について伝え、交流を行った。1、2年生の担任や5歳児の担任も参加し、子どもの姿を通して話し合うことで、幼児期と児童期の学び方の違いや、指導の手立てについて理解を深めることができた。また、地域の子どもを取り巻く環境について共通の課題も見い出すことができた。



【教職員交流の様子】

【保護者向けの取組～講話講師の依頼～】

盤溪小学校、山鼻小学校の教頭先生に、年長組の懇談会や子育て講座の講師として来ていただいた。参加した保護者からは「小学校の様子が分かり、安心できた。」「小学校の生活に見通しをもつことで、改めて幼児期の家庭生活で大切にしたいことや、親子の関わり方などについても考える機会となった。」という感想が得られた。

【成果・考察】

幼児の活動については、近隣の3校はいずれも幼児が徒歩で片道40分以上かかる距離にあり、隣接する園・校のような日常的な交流は難しいが、園の指導計画や幼児の日々の生活とのつながりを大切にしながら、小学校の協力を得て、可能な活動から一つずつ実現することができた。

教職員の取組については、幼保小連携推進協議会での管理職や連携担当者との連携から担任同士の連携へと前進させることができた。推進にあたっては、園務分掌で地域連携部に連携推進の役割を位置付けて、組織的に取り組むよう努めた。

保護者向けの取組については、昨年度から、次年度の就学児がいない小学校に講話の講師を依頼するようにしている。保護者にとっては話の内容を客観的に受け止めることができるようで、講師にも本園の様子を伝えることができています。

今後も小学校との相互理解のもとに計画的に継続し、取組の様子や成果を家庭や地域とも共有していきたい。

【札幌市立幌西小学校との連携】

- ・当園の5歳児（4月就学予定）が小学校を訪問させていただき、小学1年生と交流しています。現在は、授業の中で子どもたちが遊ぶ遊びや、一緒に楽しめる遊びを考え、事前に準備してくださっています。
- ・園児1～2名に対し、小学生が3～4名のグループを教職員間で事前に相談し決めています。5学級に当園児が分かれて入り、グループ毎に自己紹介等を行ないました。体育館に移動した後は、小学生が準備してくれた魚釣り、ボーリング、輪投げ、すごろく等の遊びを一緒に楽しみました。



《体育館で一年生が考え準備してくれた遊びを一緒に楽しんでいる様子》

【成果】

- ・初めての場所で、初めて会う相手と過ごすことで、普段の生活では気付きにくい子どもたち一人一人の課題を再認識する機会となっています。
- ・交流の時期が、例年、就学時健診に行く頃なので、当園児にとっても小学校で1年生と一緒に遊ぶ経験は、小学校に向けての安心感や期待感につながっているように思います。

【考察】

- ・回数を重ねていく中で、施設や授業の「見学」から、園児と1年生の子ども同士が触れ合う「交流の場」となっていました。
- ・今後も連携を続けていくことで、子どもたちの就学に向けた期待感や入学後の安心感につながるように努めていきたいと考えています。



《年長児が歌と手話を披露》

【新たな試みとして】

- ・当園からの働き掛けでいくつかの小学校の先生方に来園していただき、保育の様子を見てもらう機会を何度か設けることができました。特に支援が必要な子どもたちの集団での現状を共有できたことで、就学に向けてお互いに安心感を得られたと感じています。

さゆり幼稚園

〒064-0824

中央区北4条西23丁目2-8

中央区

【小学校と保護者との連携】

- ・連携先・・・札幌市立盤溪小学校
- ・自園は今年度、札幌市私立幼稚園教育研究大会の公開保育担当であった。

午後の分科会で、「今、求められる幼保小の意味～なぜ幼保小連携が必要なのか」とテーマを設け、札幌市立盤溪小学校長矢嶋一昭先生、札幌市立日新小学校教諭 下山弘美先生を助言者に迎え、小学校・幼稚園・保育園の先生方と学びを深めていった。

その際、「保護者にもぜひ聞いてほしい内容だった」という参加者の感想もあり、今回校長を招き、「就学に向けて」というテーマで、保護者会でお話していただいた。

【成果】

- ・小学校に兄・姉がいない保護者にとっては、小学校でどんなことに取り組んでいるのか、（入園当初の様子や学習の様子等）を知るきっかけとなり、安心感に繋がった。
- ・幼稚園と小学校の違いや就学前の心構え、家庭での子育てについて聞くことができ、参考になったという感想が聞かれた。

【考察】

保護者会で講話を行ったことにより、就学についての話は幼稚園側が話すより、小学校の立場から聞けたということがダイレクトに伝わった様子であった。

校長先生が幼稚園に来て話してくれたということ自体、保護者側にも幼稚園と小学校の垣根が低くなったと感じているようで、就学時の安心感に繋がった様子であった。

スクールカウンセラーのことも聞くことができ、特に支援が必要なお子さんをもつ保護者や就学に心配をもっていた保護者にとっては貴重な話となっていた。

せっかくの機会を単発的な取組に終わらせることなく、年長児対象に話していただいたり、子どもたち（年長児）に話していただいたりと、小学校との関わりを大切にしていきたい。



「スライドを交え、熱く講演」



「メモを取るなど、真剣に耳を傾けています」

つばみ幼稚園

〒064-0807

中央区南7条西25丁目1-5

中央区

【緑丘小学校1年生との交流】

- ・ 9月9日(水)、10月15日(木)の2回小学校で実施。
- ・ 年長児が緑丘小学校に訪問し、1回目は体育館、2回目は各教室に分かれての交流。体育館ではじゃんけん列車やボール送りを楽しんだ。教室では、1年生が学校クイズや教科書を読んでくれて、学校でどんなことをするのか等も教えてもらい、体験させてもらうことができた。

【緑丘小学校5年生との交流】

- ・ 11月1日(火)、2月16日(火)の2回小学校で実施。
 - ・ 年長が緑丘小学校に訪問し、体育館や教室にて交流。(例年、1回目は幼稚園、2回目は小学校での交流)
 - ・ 主に学校探検をさせてもらい、様々な教室に連れて行ってもらうことができた。
- ※1年生・5年生とも小学校側から交流を企画してくださり、楽しい交流場面であった。

※年長の6割程度が緑丘小学校に入学する予定。

【成果】

- ・ 小学校に行き、体験することで子どもたちも入学を楽しみにする姿が増えている。
- ・ 小学校入学に不安だった子ども、優しく小学生や先生が関わってくれたことで楽しみにする子どももいた。
- ・ 交流した小学生の名前を覚え、2回目の交流を楽しみにする姿が見られた。1回目に緊張していた子ども2回目の交流ではスムーズに関わることができていた。
- ・ 1年生や5年生になった卒園児の姿も見ることができ、子どもたちの成長を感じる交流となっている。

【考察】

- ・ 1度の交流ではなく、各学年2回行うことで、前回の活動を思い出し、楽しんで交流する姿が見られ、小学校が楽しい場所となっている。
- ・ 小学校で交流することで、環境にも慣れ入学してからスムーズに生活を送れるようになっていくと感じる。
- ・ 今後は、他の小学校とも交流の機会を設けることや、小学校訪問をさせていただきたいと考えている。
- ・ 入学予定の園児を伝え、実際に子どもの様子を見ていただき、引継をしている。
- ・ 来年度は幼稚園での交流を考えていきたい。

1年生とフープリレー



1年生が学校クイズを発表



5年生と紙飛行機を折っています！



5年生に音楽室に連れていってもらったよ

さより保育園

〒064-0804

中央区南4条西15丁目1-35

【二条小学校との連携】

- ・ 小学校に訪問し、学習発表会を
観覧(4、5才児)
- ・ 小学校のもちつきに参加(4、5才児)

【連携の様子】

1 学習発表会観覧

- ・ 1～3年生の児童観覧日に訪問し、
小学生の劇や合奏などを見学する。

2 もちつき

- ・ 6年生の卒業を祝うもちつきの行事
に参加し、もちつき体験をさせてい
ただく。
- ・ つきたてのお餅をごちそうになる。

【成果】

- ・ 実際に校舎内に入ること、小学校という場所のイメージができるようになる。
・ 園児も保育士も小学校が身近に感じられるようになる。特に来年度二条小学校へ就
学予定の園児は小学校教諭に対して「今度1年生としてきます」と話しかける様子
があった。
・ 卒園児の現在の様子を見ることができ、成長を感じられる。
・ 園児が小学生の堂々とした発表に驚き、刺激を受け、自分たちの発表会へ向ける気
持ちは変化した。

具体例ーブラスバンドの演奏を見た園児は、保育園で自分が担当する事になってい
る太鼓の叩き方を振り返り、力いっぱい叩くだけが演奏ではないと気付き
強弱について気を配ることができるようになった。

- ・ 学習発表会に続き2回目ということでさらに親近感が増す。
・ なかなか体験できない「もちつき」という行事に触れられることを毎年楽しみにし
ている。

【考察】

- ・ 小学校が身近になることで保育園として何か困ったことがあった際に相談しやすい。
- ・ 現在の小学生の様子、育ちを少しではあるが実際に見て知ることができ、気付きを保育
に活かせる。

【問題点や改善点】

- ・ 継続して続けていくことが望ましいが、小学校、保育園共に担当が変わったり、忙しさ
から連携内容の積み重ねが次年度へ繋がらなくなってしまう可能性があることに注意を
していく必要がある。

もちつき体験
をする園児



きなこもちを
いただく

アートチャイルドケア 札幌桑園

〒060-0005

中央区北5条西12丁目6番1

中央区

【桑園小学校の連携】

- ・平成 27 年度、幼保小連携推進協議会 1 回目で桑園小学校に進学する予定の園児が多いことを伝えた。桑園小学校に夏頃に年長児 7 名と見学に行きたいとお願いし、了承を頂く。6 月に入り、園長から桑園小学校の担当教諭に電話で日時の確認をした。8 月 25 日、10 時から 11 時まで見学をさせてもらうことに決まった。8 月に入り、担任から担当教諭に日時の確認の電話をし、確認すべきことを聞き、当日を迎えた。
- ・小学校見学当日の朝は、年長児はすごく楽しみにしており「小学校ってどんなところだと思う？」「小学校ではどんな勉強をすると思う？」と



《1年生の授業を見ているところ》

いう担任からの問いに「小学校は怖い先生がいるところ」「小学校はたくさん勉強するところ」「国語とか英語も勉強するのかな？」等、様々な声が聞こえてきた。桑園小学校に着き、1・2年生の授業風景や夏休みの自由研究を見せてもらって、1年生になるとこんなにもすごいのかと感動していた。また、図書室や体育館の中まで入らせていただいた。図書室では絵本を1冊座って読ませてもらい、たくさんの絵本の中から選ぶことが楽しくて自然と笑みがこぼれていた。体育館では、1年生のお兄さん・お姉さんたちが先生と遊んでいる中に入らせてもらい、追いかっこや大根抜きをして1年生のお兄さん・お姉さんの優しさに触れることができ、小学校への期待感がさらに高まったように思う。小学校を出る際に、校長先生にもお会いでき、「待っているよ。」と言ってもらえたことをとても喜んでいた。

【成果】

- ・連携することで、入学することに対して不安感があつた幼児も期待感に変わった。
- ・中休みの時間に1年生と関われたことにより、1年生が年長児が思っているよりいろんなことができているという憧れをもつことができた。

【考察】

- ・継続して、いろいろな時期にいろいろな小学校を見学していきたい。

認定こども園マミーポッケ

〒060-0052

中央区南2条東1丁目1-12

【札幌市立中央小学校と連携】

6月の運動会や11月の学習発表会、そして12月のお祭り広場では、小学校のお兄さん、お姉さんにたくさん教えてもらいながら、宝探しや魚釣りゲーム等、楽しく交流できました。そして1月、5年生と年長児の縄跳び交流の予定でしたが、年長クラスが学級閉鎖に近い状況で、一ヶ月後に移し「雪だるま大作戦」の見学と学校探索をしてきました。冬休みの自由研究の発表では、驚きの発表揃いで、何度も子どもたちに触らないでね、と注意を促しました。「雪だるま大作戦」では、550人の全学年が縦割活動でグループを作り、それぞれ工夫して雪だるまをたくさん作り正面玄関前に展示して見合うことでした。寒さに負けずに協力して、一つの目的に向かって頑張っていました。

「雪だるま大作戦 NO1」



『なるほどーどんぐりをつかうんだね?!』

「自由研究発表見学」



『どうやって つくったんだろうー?!』

「雪だるま大作戦 NO2」



一心不乱のお姉さんたち

「お祭り広場」



『まだかな・・・』『ちょっと まっててね』

連携することで、小学生に対し憧れをもち、小学校へ行くことへの期待の高まりを強く感じられた。

今年度はできなかったが、来年度は当園の方にも来園していただけるような、交流を考え、保護者の方にも、連携の大切さを働きかけていこうと思う。

札幌市立中央小学校

〒060-0041

中央区大通東6丁目12

【地区保育園・こども園との連携】

- ・中央小学校との連携 D2ブロック（○認定こども園・□保育園）

○ カトリック聖園こどもの家、認定子ども園マミーポッケ

□ 駒鳥保育所、大通夜間保育園、鉄道弘済会札幌保育所、札幌時計台雲母保育園、たかさごナーサリースクール大通公園の7園と交流することができた。

※下線の3園は、今年度より交流開始

・連携の様子

テーマ「つながりをつなげよう」

交流のための
土台づくり

<職員間>のつながり

- ・10/28にブロック交流会（茶話会）
- ・行事のお誘いFAX交流（随時）
- ・学習発表会の観覧、食育試食会←New
- ・子ども園職員研修講師（10月）←New

<子どもたち>のつながり

- ・11/13の学芸会児童公開日への招待：年長児
- ・12/16に生活科「おまつり広場」に招待
：1、2年生児童と年長児
- ・休み時間の縄跳び交流（2学期～3学期）
：5年生児童と年長児
- ・年長園児への出前授業（冬季休業中）←New
：本校職員と年長児童
- ・学校訪問（3学期）：年長児

お兄さんお姉さん1年生としてがんばるぞ！
6年生として、1年生をサポートするぞ！



【おまつり広場の様子】



【縄とび交流の様子】

・連携に至る経緯

今年度も、新たに3園と交わったので、「つながりをつなげよう」をテーマにして連携を図った。2学期には、ブロック内で交流会を開き、各園との行事予定などを再度確認しながら交流できる活動を話し合った。互いの行事に参加できるかを話し合い、継続できる企画を考えた。特に後期は、次年度6年生と1年生の関係になることを考えて、年長児と5年生とのつながりを大切にしたい取組を継続して実施することができた。

【成果】

- ・幼保小連携推進協議会での交流以外にブロック内で職員間の交流を図ることができた。電話やFAX等での連絡が昨年度よりもスムーズに行えるようになり、園や学校の行事だけでなく研究会や研修会等にも互いに気兼ねなく参加し交流できるようになった。
- ・園の子どもたちも毎年、おまつり広場への参加や学芸会の観覧など楽しみにしている活動になっているようである。また、運動での交流に対して互いに興味をもち、今年度も縄とび交流が継続して行うことができた。
- ・今回新たに、こども園の職員研修を行ったり、保育園の年長児に「小学校ってこんなところ」という内容で紙芝居を用いた出前授業を行ったりすることができた。

【考察】

- ・連携を図ることで地区の子どもたちを幼保の時から継続的に見守る体制ができてきたように感じる。保護者からは交流の様子が伝わってくるなどの関心の高さが感じられる。特に引継では、交流での園児の様子や実態から具体的な話ができるのでスムーズに引継ぐことができたのではないかと考えられる。